

新「河川整備計画」の着実な促進を!



佐藤 範男 議員

市長 河川法の目的達成のため、実施工事の目的、種類、場所などを具体的に定

議員 県が作成する新たな河川整備計画の概要は。

計画期間は30年

議員 近年の台風や豪雨は、想定外や暴力的規模で、生活の安全・安心に向け、防災や減災への抜本的な取り組みが求められている。現在、国が定める河川整備基本方針を受け、河川管理者の県は新たな河川整備計画を作成する計画だ。

議員 近年の台風や豪雨は、想定外や暴力的規模で、生活の安全・安心に向け、防災や減災への抜本的な取り組みが求められている。現在、国が定める河川整備基本方針を受け、河川管理者の県は新たな河川整備計画を作成する計画だ。

市長 河川法の目的達成のため、実施工事の目的、種類、場所などを具体的に定

議員 県が作成する新たな河川整備計画の概要は。

河川ごとの整備計画

議員 計画期間は、平成27年度から30年間となる。

議員 近年の台風や豪雨は、想定外や暴力的規模で、生活の安全・安心に向け、防災や減災への抜本的な取り組みが求められている。現在、国が定める河川整備基本方針を受け、河川管理者の県は新たな河川整備計画を作成する計画だ。

市長 河川法の目的達成のため、実施工事の目的、種類、場所などを具体的に定

議員 県が作成する新たな河川整備計画の概要は。

二岐橋上流部も整備

議員 近年の台風や豪雨は、想定外や暴力的規模で、生活の安全・安心に向け、防災や減災への抜本的な取り組みが求められている。現在、国が定める河川整備基本方針を受け、河川管理者の県は新たな河川整備計画を作成する計画だ。

市長 河川法の目的達成のため、実施工事の目的、種類、場所などを具体的に定



整備が待たれる鶯沢二岐橋上流部

整備期間は30年、整備手法は築堤や河道掘削、低水路拡幅、旧堤撤去(若柳工区)など聞いています。

また、関係住民の意見聴取も終了しており、市からの要望も盛り込んでいる。

瀬峰小学校へ道路の新設を



佐々木幸一 議員

議員 瀬峰小学校は緊急避難所に指定されているが、車の出入口は市道小学校線だけで、登下校時は送迎の車で混雑している。今後、幼保一体施設が整備されたら、万一、災害が発生した場合、保護者への引き渡し、緊急車両の活動や緊急避難所の役割を果たすには、市道総合運動場線から小学校への新たな道路が必要と思うので伺う。

市長 現在、瀬峰小学校への車両の通行は、市道小学校線からの一方向だけで、

栗原キャンパス構想の総括

議員 第5回構想審査会で東北薬科大学の医学部新設が決まった。栗原キャンパス

送迎や学校行事の際には一時的に混み合っている。また、幼保一体施設完成後や一時避難所として緊急避難をスムーズに行うためにも、新たな接続道路の必要性は大きいので、幼保一体施設の整備スケジュールを勘案しながら、道路整備を検討して行きたい。



送迎訓練で県道まで並ぶ車

又構想が不採択となった原因は何か。東北薬科大学は

校舎と附属病院が離れているが、それでも一体施設と

は、これまで河川敷内の支障木伐採や堆積土砂撤去を行ってきた。今後はこの計画に基づき、従来の手法より踏み込んだ整備対応になると考えている。

宮城大学医学部構想の不採択の原因は、準備不足と説明されている。

市長 宮城大学医学部構想の不採択の原因は、準備不足と説明されている。東北薬科大学は、附属病院の隣接地に平成29年度末までに医学部校舎を建設し、それまでは既存施設を使うとしている。

また、県立循環器・呼吸器病センターには、引き続きこれまでの医療を提供してほしいと考えている。

対策は十分か
豪雨の災害防止



三塚 東議員

議員 局地的な集中豪雨が増え、災害の危険が高まっている今日、市の土砂災害危険箇所を住民を対象に、避難場所を知らせたり、避難誘導の訓練の強化を図るべきではないか。

市長 市民自らが安全に避難できるよう、指定避難場所と避難経路などを記載した「栗原市指定避難施設一覧」を平成25年11月に每户配付し、事前に知らせている。

また、避難誘導訓練は「自分の身の安全は自分で

守る」、自分達の地域は自分で守る」との観点から、自主防災組織に対し避難訓練などの実施を毎年促しており、今後さらに指導していく。

議員 市は、豪雨などによる防災と減災を強化するため、多様な情報を市民に配信する仕組みづくりに着手すべきではないか。

市長 携帯電話会社3社は「緊急地震速報」と同様に、災害・避難情報を配信できる緊急速報メールサービスを行っており、市からの災

害に関わる様々な情報を、市内一斉に配信することができるようになっている。

議員 豪雨や地震が起きた場合、被害をもたらす可能性の高い「ため池」はないか。

市長 市所有の「ため池」は84ヶ所を受益面積としており、貯水量18万ト級から400ト級まである。

平成20年岩手・宮城内陸地震以降、豪雨や地震などで被災した「ため池」は、すべて災害復旧工事や維持工事で安全を確保している。



豪雨が心配な裏山の土砂崩れ

障害者福祉タクシー
利用助成制度の
徹底を



佐藤 文男 議員

議員 心身に重度の障がいがある方に対し、通院する際のタクシー利用料金の一部を助成する事業がある。この制度があることを知らずにいる当事者や家族が多い。制度の徹底がされていないのは問題だ。市のホームページや他の方法で徹底を図るべきだ。

また、対象は非課税世帯に限られるが所得制限はなくすべきと思うがどうか。

市長 市のホームページの障がい者福祉事業の内容に不十分なところがあった。

ホームページや広報を活用し事業の周知を図る。また、対象は非課税世帯に限らせていただく。

地域の伝統文化・芸能の継承対策は

議員 市指定の有形・無形文化財以外にも、残したい優れた栗原の伝統文化や芸能が多くある。継承の一翼を担っていたのが小学校だ。小学校が再編される中、こうした伝承が難しくなっている。

再点検し、継承の支援を



通院に助かります「福祉タクシー」

すべきと思うがどうか。

教育長 栗原市には素晴らしい

伝統文化がたくさんある。後世に伝えていくために演技指導や講習、伝統行事などの保存活動を行っている14団体に補助金を交付し、継承の支援を行っている。

学校教育の中では、地域に伝わる伝統文化や芸能に思いをはせ、地域の人々の思いを大切にしたい教育活動を推進するようにしている。

また、学校行事で努めて発表の場を設けるなど、地域と密着した学校になるよう指示している。



小野 久一 議員

交通渋滞の解消と安全対策の充実を

議員 国道4号と県道大鳥沢辺線の沢辺西大寺交差点や、国道4号と県道中田栗駒線の沢辺神林交差点は、朝夕のラッシュ時には非常に渋滞を起こす。右折レーンを設け交通渋滞を解消するよう国、県への働きかけを強めるべきではないか。

市長 双方の交差点とも形状が不整形で、県道に右折専用レーンが設置されていないため、ラッシュ時の渋滞や右折待機車両への衝突事故が発生している。

今年6月、仙台河川国道事務所長に要望した。今後もし引き続き国・県へ強く働きかける。

議員 県道大鳥沢辺線の菱沼交差点は見通しが悪く、2つあるカーブミラーは朝露や氷結により役に立たなくなる。信号機が必要ではないか。また、交差点やT字路の路面に白線で一時停止の文字が書かれていると分かり易いので、推進すべきでないか。

市長 信号機は、最終的には公安委員会が決めるが、



待ちきれずUターンする車も (神林交差点)

市の重要な路線であり、危険箇所と認識している。

白線の表示については行政区長やコミュニティ、学校などを通じて、必要性を調査したい。

焼却灰のセシウム濃度測定を実施すべき

議員 キノコ栽培用のほだ木の管理、薪ストーブから出る焼却灰のセシウム濃度は、すぐに検査できるか。

市長 汚染ほだ木は、適切な管理を県で指導している。焼却灰の測定は行っていないが、今後は、直ちに行動する。



佐々木嘉郎 議員

定住対策にもっと力を

議員 婚活促進事業によるカップル誕生数、結婚件数はどうなっているか。

市長 これまで6回開催し、309人の参加があった。27組のカップルが誕生している。

議員 出会いの時、会話ができない人が多いという。結婚のための会話力教室を考えてはどうか。

市長 必要だと考えるので、具体的に検討する。

議員 調査では、90近く近くの男女が結婚したいと答えている。結婚の障害は何か。

市長 市内在住の未婚男女割合は3対1となっている。仮に、市内の出会いだけを考えると、男性の3分の2の相手がいない状況である。

議員 所得や勤務形態を考慮すれば、仙台や大崎市への通勤を前提に瀬峰、高清水、志波姫地区に若者向け住宅をつくってはどうか。

市長 本市は高速交通網に恵まれ、どこにでも通勤可能であることから、未利用の市有地を活用し、シェアリングタウン事業を進めていく。

議員 結婚がなぜ必要かを学ぶ場について、社会教育上の設定が必要ではないか。

市長 人口減少が大きな課題となっている今、さまざまな分野の声を聞き、必要性や方法について検討する。

議員 観光も定住対策に必要と考えるが、マイカーで湯浜まで行き、栗駒山に登って別のコースを下山する場合の、車の回送事業はできないか。

市長 栗駒山麓連絡会議で協議・検討する。外国人の誘客のため



栗原市婚活イベントのチラシ

栗駒山周辺に外国語の観光案内板が必要ではないか。

市長 不可欠な取り組みなので、具体的に検討する。

不要な施設を撤去せよ



瀬戸健治郎 議員

議員 落堀機場と樋門は完成時に試運転されただけで、その後は稼働していない。震災の復旧も終わり、今後は段階的に地方交付税が減額され、市財政において厳しい状況が予想されるので、不要な施設の撤去を進めるべきではないか。

市長 この施設は、若柳と志波姫地区の排水施設で、ポンプを2台装備し、昭和36年3月に竣工をしたが、現在は不要の施設となっている。

樋門が落堀川の一部を狭

議員 人口減少や高齢化に伴い、今後米の消費は年々減少することが危惧される。これからは主食以外の米や大豆を作らなければならぬのは明確である。

今年産ひとめぼれの概算金は史上最低の8400円

市長 ほ場整備事業は、ほ場の大区画化による農作業の効率化、水利用の適正化、農地の汎用化によるコスト低減が図られる。

また、関係者が一体となって取り組むことにより、地域の活性化につながると考えている。

本年3月末のほ場整備率は、宮城県が63%、全国平均が63%、栗原市は57%となっており、農家や



撤去が検討される落堀機場と樋門

地域にとって大切な事業であり、さらに努力する。

その他の質問事項
集中豪雨災害への減災対策

若柳総合支所
庁舎新築は
現在地に



菅原 勇喜 議員

議員 建設位置については、敷地の有効活用の観点から、現庁舎を解体後、跡地に建設することが最良と考えるがいかがか。

市長 現庁舎解体後の跡地への建設は、総合支所機能を他の公共施設に一時移転する必要があり、移転に伴って経費が高むことや、移転先施設の本来機能が損なわれ、市民サービスに多大な影響を及ぼすことから、困難であると考えている。

議員 地域住民への説明会で出された意見と、それへの

の対応はごつされる考えか。

市長 市民からは建設位置、バス停の位置、屋外トイレ設置の意見・要望があった。建設位置は種々検討の結果決定。バス停の位置は今後協議を行う。屋外トイレ設置については実施設計において検討する。

議員 木造建築であり、栗原市産材、市有林の活用をすべきと考えるがいかがか。

市長 発注に際し、仕様書などで「木材の使用にあたっては地域産材の利用に努めること。」と付記し、栗原



改築が予定される若柳総合支所

産材の活用を促している。市有林の活用については、伐採、乾燥、JAS認定工

場での製材など、納期までの準備やコストの観点から困難であると考えている。

低米価、市長の見解は

議員 本年度産米概算金が60冠あたり8400円と発表されたことは、今後の市政にも大きな影響を与えると考えますが、市長の見解は。

市長 出荷量60万俵で積算すると、昨年と比べて16億8千万円の減収となる。

市内消費の減退、市民税の減収など、地域経済や市政運営に多大な影響を及ぼすことから、新たな支援制度の創設などを国や県に強く働きかけていく。

伝統芸能に力添えを

幼い頃、祖父に連れられ秋祭りや奉納された神楽に魅了され、それがきっかけで、昭和50年に瀬峰神楽保存会に入会以来、活動を続けています。平成23年に栗原市より、文化庁が提唱した「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の参加要請を受けました。伝統芸能の継承に係る事業であり、神楽用具整備の補助金の交付をいただき大変感謝しています。今後この制度の継続を望みます。

当保存会では、5人の若手会員を後継者として育成するため、一層稽古に励んでいます。また、小学校の総合学習「地域の伝統文化にふれよう」の体験要請に心え、児童に神楽を指導して今年で13年目になります。

折しも臨時国会で総理大臣の所信表明に、地方創生の推進を強調していましたが、我々の活動もその一翼を担っていると自負しています。更なるお力添えをお願い致します。



お ち 夫 さん
はる
かど わき
門 脇
(瀬 峰)

私もひとこと

栗原に生きる



わた なべ
渡 辺
せい こ
生 子 さん
(一 迫)

今年3月に東京から栗原市に移住してきました。20年前、不動産屋の紹介でこちらに土地を買い求めてから通い続けました。

そしてそこに生きる人々の穏やかで、人間的な温かさに惹かれてきたのです。

土地を耕し、そしてその後のお茶っこの楽しみ。自然と共に生きることの喜びを享受できる、都会では考えられなかった生活を楽しんでいます。

家のそばで採れる山菜やキノコ。タラの芽よりも美味しいコシアブラを知ったのも、この地へ来てからでした。

でも、そんな楽しみを不安にさせる放射能汚染。東京の友人達に野菜を送っても、ごめんなさいと言われることがあります。その上、最終処分場まで出来たらと心配になります。

まずは安心して住み続けられることが、この地で生きようとする者の最大の願いです。

あそびがき

『天高く馬肥ゆる秋』
秀麗栗駒山は、澄みきつた青空に凜とそびえて古里を見守っています。
四季折々に衣替えをする山の恵みに日々感謝しています。

黄金色のジュウタンが見る見る間に刈り取られ、新米が食欲をそそります。油断大敵、適度な運動も忘れずに。

秋の夜長に、神楽の音が聞こえてきます。豊作に感謝し、「来年も平穏無事に幸せでありますように」と…。

天災は、忘れた頃にやってくる。人災は、智徳で防がなければなりません。市民の英知の結集を。

佐藤 悟

広報編集調査特別委員会

委員長	佐々木 脩
副委員長	佐藤 範男
委員	菅原 喜
委員	高橋 渉
委員	菅原 久男
委員	藤原 昭
委員	佐藤 悟
委員	高橋 久男
委員	佐藤 悟
委員	高橋 久男
委員	高橋 久男
委員長	石川 正運